

第62回 定例講演会「中部圏における地方観光の課題」

開催日：2026年1月27日

会場：JRゲートタワーカンファレンス（WEB同時配信）

今回の定例講演会は、「中部圏における地方観光の課題」をテーマに開催しました。基調講演では、各種メディアでもご活躍中の航空・旅行アナリストの鳥海高太郎様にお越しいただき、地方観光の課題やインバウンド問題について、貴重な知見やご経験を交えご講演いただきました。以下は、その内容をまとめたものです。
(文責事務局)

演題：地方観光の課題・インバウンド問題

講師：航空・旅行アナリスト 鳥海 高太郎 氏

略歴：

1978年、千葉県富津市生まれ。成城大学経済学部経営学科卒業、城西国際大学国際アドミニストレーション研究科修士課程修了。
食品会社、城西国際大学観光学部助手を経て、現在は帝京大学理工学部航空宇宙工学科、千葉商科大学サービス創造学部、共栄大学国際経営学部非常勤講師。
航空会社のマーケティング戦略を主研究に、自らも国内外を巡りながら体験談を中心に各種雑誌・経済誌などで執筆しているほか、TBSテレビ「ひるおび」、テレビ朝日「羽鳥慎一モーニングショー」などで航空・観光・宿泊業界を中心に解説している。
著書に「コロナ後のエアライン」（宝島社）、「天草エアラインの奇跡」（集英社）など。
2022年12月にYouTubeチャンネル「PTA鳥ちゃんねる」を開設し、航空を中心に乗りものに関する情報などを発信している。



皆さん、こんにちは。航空・旅行アナリストの鳥海高太郎と申します。きょうは、選挙の公示日です。講演会をセッティングしていただいた日にまさか公示日になるとは思いませんでした。

旅行は、空いている時間や余暇を過ごすという分類になるので、どうしても、大きなニュースがありますとテレビ出演が減ります。2024年のおとしになります、立憲民主党代表の選挙、自民党の総裁選、石破政権の誕生、アメリカ大統領の選挙もあり、旅行が取り上げられにくい状況が続いていました。去年はそういったニュースは少なかったのですが、去年はクマ問題で旅行の話題が取られました。

そういった中、中国人観光客の渡航自粛の影響がどれくらいあるのか。高市総理の発言があって、団体客が来なくなった。これで2か月近くが経過しました。その辺りの様子も見えてきましたので、きょうはその辺りも含めてお話ししたいと思います。

私のプロフィールですが、私は航空会社の研究

がメインです。一方で、取り巻く環境も変わってきた旅事情全般、特にネット予約についての研究、インバウンドの調査研究をしています。執筆がメインでしたが、最近はこの講演やテレビの出演等も含めてさせていただいています。3つの大学で航空マーケティング論などの授業を担当していますので、学生の意見も見ながら、若い人の旅行離れについてもお話ししたいと思います。

1. 旅は究極の「非日常」

旅行とは究極の非日常と呼ぶべきだと、私はずっと言っています。いつもと違う場所に身を置くことによって、体も心もリフレッシュして元気になり、そして新しいアイデアが生まれる。もちろん旅行に行かなくても生活はできると思いますし、いろいろな事情で旅行に行かない方もいらっしゃる。でも、旅行に行くことによって視野が広がって、元気にもつながってくるし、そして何よりも知識が深まります。これはネットの動画コンテン

ッでは得ることができません。現地に行って、沖縄に行ったらオリオンビールが飲みたくなりますし、北海道に行ったらサッポロクラシックが飲みたくなります。現地の気候風土、雰囲気、そして想定していないようなことも含めて、リアルでないと成立しないのが旅行の醍醐味ではないかと思っています。

だから、人は旅行に行って元気になって、活力になります。私にとっての活力はハワイです。ハワイが好きで、年に1~2回必ず行っています。ダイヤモンドヘッドを見て、ワイキキのビーチを見て、おいしいものを食べられればそれで十分です。今、ハワイも含めてアメリカ、ヨーロッパで物価の高騰という感じがありますが、ガーリックシュリンプを食べられればいいし、時々は贅沢な感じの朝ご飯も食べます。コーヒーを入れて5,000円くらいになってしまっていますが。円安だから行かないという選択肢もありますが、過ごし方が変わりました。無理して観光に行くとか遠くに行くというよりも、ワイキキの中で3~4日過ごすようになり、今までは外食中心だったのがテイクアウトとかフードコートを利用するようになりました。ステーキとかを奮発する日もある一方、10ドル前後くらいのマグロ丼、ガーリックシュリンプなど、1,500円、2,000円くらいで食べられるものを食べたり、朝と昼を兼ねた食事にしたりもします。皆さんにお伝えしているのですが、お水とかお茶、清涼飲料水系は日本からスーツケースに入れて持っていく。アルコールは国によって持ち込みの制限がありますし、人によっては空港でウイスキーのボトルを買って、炭酸水も持って行って、氷だけホテルでもらってハイボールにしている仲間もいますが、私はアルコールは店で飲みたいので基本的に持っていきません。帰りのお土産を買う分のスペースが空いているし、預ける荷物があるのであれば、少しでも飲み物を持っていきます。そんな感じで、円安なりの過ごし方があるという感じがします。

ホテル代はハワイでも上がっていますが、すごく上がっているわけでもないですし、昔のように

ハワイ4泊6日7万円とか6万円といったものはさすがにありませんが、飛行機もセールで買えば往復10万円以内で買えるときもありますので、過ごし方はあると思います。

私は野球が好きで、おとしドジャースの開幕シリーズに行って、ことしはWBCに行こうと思ったのですが、3年前に見にいったときと比べて観戦チケットが2.5倍だと言われました。前は準決勝2試合と決勝を内野席の1階で1,200ドル、15万円くらいで3試合見たのですが、今回問い合わせたら侍ジャパンが準々決勝からマイアミで、準々決勝は枠が決まっているものの、準決勝はどちらの枠に入るかわからない。決勝と4試合セットで3,000ドル、50万円と言われました。負ける可能性もゼロではなく、リスクが大きいのでWBCはやめて、ドジャースのホーム開幕戦に行こうかと思っています。

「銀だこ」のたこ焼きはお聞きになったことがあると思いますが、普通は6個入りが600円くらいで買うことができますが、ドジャースタジアムにいくと2,100円、1個口に入れると350円という、それくらいの物価水準です。アボカドとか4種類ありますが、取材も兼ねて1日1個買って4日間で8,000円くらい投じまして、それからしばらくはたこ焼きはいらなかったです。ビールを買うと15~16ドルくらい、2,000円を超えます。ドジャースタジアムでは、若干大きめではありますが、一日1本と決めて、あとは街中で飲んだほうがいいと思っています。でも、これも大谷選手を現地に生で見に行くという楽しさです。これはリアルじゃないと味わえないですし、推し活ならぬ推し旅というところが非常に大きいと思います。

私は、旅行の専門家でありながら、野球を見ただけでテレビに出してもらおうというイレギュラーな感じでやらせていただいています(笑)。私はどちらかという、ロサンゼルスまでどのように行ったか、チケットをどのように買ったかというノウハウ系の話をしながらか、1試合だけバックネット裏で見たらテレビに映り込んで、それを番組で司会者にイジられるということもありました。

地方経済の中で多くの中国路線は止まっていますが、95%以上は中国の方が乗っていますが、韓国線も7割、8割と韓国の方が多いのですが、最近の明るい兆しは地方に韓国線が飛ぶと、若い方を中心に韓国が好き日本人が多いので、地方に住んでいる方が気軽に行くことができるというメリットがあると思います。セントレアからもピーチのソウル線が飛んでおり、韓国のLCCが飛んでいるので、非常に行きやすい環境になっています。

昔に比べて、海外旅行の日数を延ばす方が増えています。それは日本人、外国人を問いません。その理由は、オンライン会議です。海外でも普通にある程度の仕事ができるでしょう。経営者の方、あるいは私のようなフリーランスの者は、パソコンとカメラとマイクがあればテレビ出演の生放送も5分あれば用意できます。ITの進化が旅行業界にとっても影響が大きいと思います。

2. 今、旅行市場は株高で追い風！投資した額が赤字になると旅にでかけにくい

ここからは、インバウンドとトレンドの話をしていきます。

去年感じた旅行トレンドとしては、株に左右された一年でした。トランプ関税の影響で3、4千円下がったことがあったと思います。そのときはゴールデンウィークにも旅行に行かないと皆さん財布のひもが固かった。おそらく投資して初めて、決済しないとしても評価額がマイナスになった方も一定数いたと思います。そうすると全然動かないです。特に海外旅行が本当に悪い状況でした。しかし、夏くらいから株価が回復して、そこから一気に来て今、5万数千円台という状況になっています。ニュース的には物価高がありますが、ボーナスが出ている企業もありますし、株高の恩恵、不動産も含めてだと思いますが、利益が出ています。そうすると気持ち的に旅行に少しおカネを使ってもいいかなとなって、ここで二極化が起こってきます。物価は高いが行こうという層と、近場で

20年までに4000万人、30年までに6000万人を目指す予定だった
(出典：日本政府観光局)

年	訪日外国人数(インバウンド)	出国日本人数(アウトバウンド)
1998年	410万人	1580万人
2002年	523万人	1652万人
2013年	1036万人	1747万人
2016年	2404万人	1712万人
2019年	3188万人	2008万人
2020年	411万人	317万人
2021年	24万人	51万人
2022年	383万人	277万人
2023年	2506万人	962万人
2024年	3687万人	1300万人
2025年	4268万人	1473万人

図1

過ごそうという節約型の層ができます。家族連れはおカネがかかるので、国内旅行が多い。そんな感じが受け取れます。

訪日外国人の数について先週、2025年の統計が発表されて、最終的に4,268万人が来日しました(図1)。

一方、日本人の海外出国者数がわずか1,473万人でした。1998年は長野五輪の年、2002年はサッカーの世界カップが韓国と共催された年。そのときに1,600万人前後が海外渡航していました。コロナの影響も完全に終わり、自由に海外に行けるようになった、そして飛行機の便数もこんなにあるのに、日本人の海外渡航者がわずか1,473万人でした。インバウンドは1998年の長野五輪のときと比べ10倍の数字ですが、日本人の海外出国者数はその1998年より減っています。合計で見ると、2025年には5,700万人くらい。98年で2,000万人くらい。今、この5,700万人に合わせた飛行機の便数が飛んでいるわけで、我々が海外旅行に行こうと思えば、飛行機の便数的には行ける環境が整っています。しかし、日本の賃金が上がっていない、物価が上がっている、どんどん海外に置いていかれている状況です。昔はフランスやイタリアに買い物に出かけ、ブランド品を買いに行く日本人が多かったですが、今は逆で、日本にブランド品を買いにくる外国人観光客が多い。消費税の免税問題もありますが、日本人が置かれている状況がかなり厳しいことを物語る数字です。この差がもっと縮まれば、賃金が上昇してきている証しになる

2024年の月別の訪日外国人の人数の推移(出典:日本政府観光局)

月	訪日外国人数	月	訪日外国人数
1月	2,688,478人	7月	3,292,602人
2月	2,788,224人	8月	2,933,381人
3月	3,081,781人	9月	2,872,487人
4月	3,043,003人	10月	3,312,193人
5月	3,040,294人	11月	3,187,175人
6月	3,140,642人	12月	3,489,888人

2025年の月別の訪日外国人の人数の推移(出典:日本政府観光局)

月	訪日外国人数	月	訪日外国人数
1月	3,781,629人	7月	3,437,118人
2月	3,258,491人	8月	3,428,406人
3月	3,497,755人	9月	3,267,228人
4月	3,909,128人	10月	3,896,524人
5月	3,693,587人	11月	3,518,000人
6月	3,377,985人	12月	3,617,700人

中国人観光客は、2025年8月が101万人、12月は33万人(前年比45%減)に減少

図2

かと思っています。

月間の数字を見ても、コロナ前には超えることのできなかつた300万人を2024年3月に初めて超えることができました(図2)。

3月、4月は桜です。リピーターが増えて、日本の桜を見にいこうという流れがあります。インバウンドが強いように見えて弱いのが、横浜と神戸です。この2都市は、インバウンドが思ったほど多くありません。その理由は、海の景色はきれいですが、似たような景色は海外で見られる。そうすると、そこには人が集まりにくい。やはり日本らしい、日本でしか見られない景色にインバウンドは集まります。日本人にとっては神戸、横浜は港町で素敵ですが、海外の人にとっては新鮮には映らないようです。桜は日本でしか見られないから、そこは強い。白川郷のような昔の伝統的な部分も強い。京都のような寺社仏閣も強い。今、山形が多いですが、銀山温泉は昭和レトロな感じが残っています。きょうは話題を出しません、銀山温泉とか群馬県の草津温泉は、レトロでありながらも新しいものを入れていく、レトロとモダンの融合が大きな要素です。レトロだけで売るのは正直、一步間違うとボロいだけで終わってしまいますから、そこにモダンなものを出すことによって人が集まりやすい環境になると思っています。

昨年の訪日外国人の推移を見ますと、毎月300万人超えという、すごい状況になっていました。4月に390万人、12月が360万人。2024年を見てもらうとわかりますが、9月は意外と少ないです。

欧米が7月で夏休みがほぼ終わって、アジアも8月で終わって、9月は年間の中ですごく少ない月になっています。1月と2月は中国の旧正月がどっちに来るかによって変わってきますが、旧正月のない月も比較的少ないです。ことしは2月の真ん中くらいが旧正月ですが、中国からのインバウンドは来ないと思います。

中国人の影響を見ると、ビジネス客と観光客を含めた数字になりますが、中国人の入国者は去年の8月が101万人、12月が33万人まで減っています。前年が60万人ちょっとだったので、そこから44%減の33万人。ただ、月間の伸び率がずっと15%から20%伸びていたので、12月には中国の騒動がなかったら70万人超えくらいにはなっていたと思います。70万人から75万人くらい来たと思います。もしかしたら、この騒動がなかったら12月には400万人に届くか届かないくらいまではいったと思います。ただ、30万人、40万人のマイナスが12月単月であるので、この数字になっています。そうすると大体1割の影響ではないか。インバウンド全体における影響は、人数だけで見たら1割くらいという感じになっていると思います。最盛期で100万人を超えていますから、中国人が一番たくさん来ていたときに比べると、今は3割くらいの感じです。ただ、個人旅行が意外と耐えています。この報道が起こったとき、11月前半のときに私はテレビで話すとき、毎日違うため必ず言ったことばは「きょう時点で」です。団体旅行客に対する日本への渡航自粛でしたが個人に対してどれくらい強く中国政府が打ち出してくるかを、ずっと見ていました。結論からいうと、個人で行っている人は黙認です。やはり日本が好きなのはいます。おいしいものを食べたり、景色を見たり、スキー場に行ったりというので、来る人は来ています。ただSNSの発信は控えているようで、「そっと来ている」という感じはあります。ただ、日本が好きなたちは来ていて、その人たちの行動まで中国政府が止めていることは、きょうの時点ではありませんので、この程度で済んでいるのではないのでしょうか。45%減は耐えたかなという感じ

があります。この状況がどれくらい続くか。高市政権が続く限り、そして中国側も習近平政権が続く限り、大きな変化はなく平行線でしょう。

中国の航空会社の日本・中国路線の大減便もすでに行なわれていて、いよいよ成田も減り始めたようです。羽田は発着枠をひとたび返すと取り戻せないということと一定のビジネス需要があるので現状維持ですが、羽田を除くとほとんどが減便になって、地方路線はほぼ全部運休という状況になっています。

私は主要都市のホテルの価格をチェックしています。京都がダントツで下がっていて、シングルが4,000円台、5,000円台、日によっては3,000円台というところまで出ています。今まで15,000円くらいで売っていたところではあるものの、5,000円以下にはなっていない。下がったものの、思いのほか耐えています。きょうも街中を見ていましたが、ほかの国の人が増えたという印象があります。福岡は韓国の方が多いので、福岡は気持ち下がったくらいのレベルです。東京は12月までは耐えていましたが、1月になってからホテルの価格が平日は下がり始めています。東京も平日だったら8,000円とか9,000円で泊まれるビジネスホテルが出始めましたし、5万~6万円したシティホテルが3万~4万円になる状況が起こっています。札幌は思ったほど下がっていません。韓国、台湾が元気なので、欧米の方を含めそこがかなりプラスになっています。東海地方は中国依存とよく言われますが、もちろん影響はあ

パスポート保有率(出典:外務省)

2019年	23.8%	海外の保有率
2020年	21.8%	アメリカ 50%以上
2021年	19.2%	韓国 約40%
2022年	17.1%	台湾 約60%
2023年	17.0%	
2024年	17.5%	

日本国民の約6人に1人しかパスポートを保有していない。円安・物価高の影響もあるが、若者の海外旅行離れも

図3

りますが、耐えているという見方もできると思います。

そういった中で、パスポートの保有率の話はよくします。コロナ前より日本人のパスポート保有率が6%下がっています(図3)。これは、かなり厳しい状況です。日本国民の約6人に1人しか持っていない。ようやく日本政府も、パスポート取得は今16,000円前後ですが、これを7月から9,000円前後にします。オンラインと窓口で料金が変わりますが、本当は5,000円くらいにして欲しかったのと、30歳未満は1,000円くらいでパスポートを発行するようにして欲しかったと思います。

3. 日本国内でのインバウンド消費について

インバウンドが来たことによって日本におカネが落ちる。その恩恵が日本人にもっとあるべきだと思います。オーバーツーリズムでバスが混むとかごみを捨てるなどのネガティブなこともあります。逆に、おカネを落としてくれることによって、我々の生活がよくなることをやって欲しいと思っています。それに関係するのが、インバウンドの消費額です。

観光客のコロナ前とコロナ後の主な変化

■ 入国者数

2019年: 3188万2049人 2025年: 4268万3600人

■ 消費単価(全目的)

2019年: 15万8542円 2025年: 22万8809円

※2025年では、アメリカ34万1383円、オーストラリア39万0048円、イギリス39万0391円、韓国10万4606円、台湾18万5595円、中国24万6154円、タイ20万4054円、シンガポール31万7977円

■ 平均泊数(観光・レジャー目的)

2019年: 6.2泊 2025年: 7.1泊(2024年6.9泊)

※2025年では、アメリカ10.8泊、オーストラリア13.3泊、イギリス12.8泊、フランス16.5泊、韓国3.4泊、台湾5.6泊、中国6.4泊、タイ5.8泊、シンガポール9泊

出典: 日本政府観光局「訪日外客統計」、観光庁「旅行・観光消費動向調査」(2023年)、観光庁「インバウンド消費動向調査」(2024・2025年)

滞在日数が0.9日増加し、消費単価は1.44倍に増加。円安も追い風に

図4

入国者が2019年と昨年を比べただけでも1,000万人以上増えています(図4)。

消費単価、日本に落とすおカネ、航空券代は入

りません、日本に着いてからの費用が15万円台から22万円台に上がっています。そして、旅行業界にとって一番うれしいところは、宿泊日数が6.2泊から7.1泊に増えました。この1年だけで見ても0.2泊増えています。欧米は2週間から3週間。短い方もいますが、インタビューを取ると3週間が一番多いです。1か月いる方もいらっしゃいます。入国者が増えているのに宿泊者数が増えているというのは、すごいことです。これは何を意味するかというと、欧米の方がものすごく増えているということです。滞在日数の長い方が増えている。消費単価も1.44倍になっています。円安も追い風です。

外国人は日本でいくら遣って来ているのかは図5の通りです。

訪日外国人消費額(出典:観光庁)

年	総額	(内宿泊費、買物代)
2010年	1兆1490億円	※詳細データなし
2011年	8315億円	※詳細データなし
2013年	1兆4167億円	※詳細データなし
2017年	4兆4162億円	1兆2451億円、1兆6398億円
2018年	4兆5189億円	1兆3212億円、1兆5763億円
2019年	4兆8135億円	1兆4132億円、1兆6690億円
2022年	8987億円	3071億円、2361億円
2023年	5兆3065億円	1兆8345億円、1兆4043億円
2024年	8兆1395億円	2兆7366億円、2兆3952億円
2025年	9兆4559億円	3兆4617億円、2兆5490億円

図5

2010年くらいで1兆円くらいでした。東日本大震災があって落ち込んで、そこから上がっていった、コロナでまた落ち込みましたが、昨年が9兆4,500億円で10兆円いくかなと思っていたのですが、届きませんでした。宿泊費が3兆4,617億円。買い物が2兆5,590億円。ただ、前年は買い物が2兆3,950億円と少ししか増えていないです。買い物を目当てよりも、日本で体験したい。宿の価格が上がっているとはいえ、2兆7,300億から3兆4,600億円に、かなりアップしています。名古屋もホテルが上がっていたときもありますが、泊まっている人は多いという印象を受けています。

為替の動向を見ていただきたいのですが、2011

外国為替ドル円 年間平均(出典:IMF Data)

年	外国人消費総額	1USD円
2010年	1兆1490億円	87.78円
2011年	8315億円	79.81円
2013年	1兆4167億円	97.59円
2017年	4兆4162億円	112.16円
2018年	4兆5189億円	110.42円
2019年	4兆8135億円	109.01円
2022年	8987億円	131.50円
2023年	5兆3065億円	140.49円
2024年	8兆1395億円	151.36円
2025年	9兆4559億円	149.71円(暫定値)

図6

年が平均79.81、コロナの直前、2019年が109円ですが、2020年、コロナに入る2月、3月が105円くらいでした。そこから、おとし160円をつけて、今も157円~158円と気持ち円高になったとはいえ150円前後になっています。単純に日本人からすると1.5倍の為替水準になって、物価がアメリカとかヨーロッパでは3割から5割上がっていますから、2倍以上の日本円が必要です。海外の人は日本に来たら3分の2の金額で済んでしまう。物価上昇も諸外国に比べれば低いです(図6)。

ここで2019年の109円、2025年の150円を頭に入れておいていただいて、改めて図4を見てください。消費単価をドルで割ると、ほぼ一緒です。15万円から22万円に上がって、日本としてはおカネが多く落ちていると思われかもしれませんが、アメリカ人だけを見た場合においては実はドル建てでいうと、ほとんど変わってないのです。我々は遣ってくださっていると思っていますが、彼らは給料も我々日本人より上昇率が高い。物価も上昇している。そうすると、日本は彼らにとってよりお得度が高い国といえるでしょう。ドルを使ってくれていても、アメリカの人からはむしろ物価が上がってこの金額でいいですか?という気持ちです。

今、ホテルやさまざまな施設の二重価格という話題がニュースとして出てきています。日本で展開している大手のホテルチェーンの方と、二重価格の導入は良いのか悪いのか、それによって影響があるかないかについてお話ししましたが、私はやるべきだと思います。日本人及び日本在住者は

シニア割とか学生割みたいな感じでやるべきだと思います。二重価格の問題でいうと、ルーブル美術館がEU外の人については値上げしました。3,000円くらい値上げしました。ルーブルがそれをやってくれたということは、世界的に二重価格OKのサインです。どちらかという途上国が生活の格差があるからやるという今までの形から、自国民ファースト、自分の地域ファーストの流れになっています。ルーブルが二重価格をやったことによって、世界的な観光における宿泊も含めた二重価格がやりやすい環境が整った。ジャングリア沖縄がそれを始めていますが、いまいちニュースになっていなくて影響するほど海外の方が来ていないところがあるかと思います。

外国人観光客が三大都市圏に集中しています。名古屋にとって悪い話ではないのですが、飛行機が羽田、成田、関西、セントレア、福岡といった、大都市の空港に入ってきます。地方都市に入ってくる海外便は、団体ツアーで、かつその空港に大型バスを着けられるからです。今、中国人も個人旅行客が増えていきます。どんどん個人化が進んでくると、二次交通が便利な大都市にとりあえず入るといった形が強くなってきて、これが結果的に押し上げている形です。

昨年度、最終数値は出ていませんが微減して、少し地方回帰が進んでいるところがありますが、それは地方に行きたいところがあって、そこに訪れて泊まるということがあるのではないかと思います。そういった意味でいうと、空港の機能、セントレアの便数によってその辺りのところは変わってきます。ここはありがたいことに新幹線も「のぞみ」が止まるので、名古屋グルメをもっと外国の方に食べてもらったらいいのに、という思いがあります。

名古屋では解決されつつありますが、地方の課題として最高級ホテル・旅館が少ないです。全国的にビジネスホテルは全部そろっていますが、高付加価値のものが少ないと思います。私が理想とする話として、地方において1泊3万円から5万円の価格帯、5万円から10万円の価格帯、10万円

以上の価格帯、この辺りが富裕層の取り込みにおいて大事になってきます。逆に安い層の受け入れについては日本は得意なので、ここに関しては全国的に問題ないでしょう。

去年10月、エスパシオ・ナゴヤキャッスルが開業して、今年の夏はコンラッド名古屋ができます。今までですと、名古屋駅にマリオットがあったりゲートタワーホテルは私も好きで3~4回泊まっています。この間、エスパシオ・ナゴヤキャッスルのオープン前のお披露目会に呼んでいただきました。お城を見ながら、1泊30万円でスタートしていましたが、今は20万円からクーポンをうまく使うと15万円くらいです。

最近、コンセプトルームのような感じも増えており、青森の三沢にある星野リゾートの青森屋は、部屋が全部「ねぶた」になっています。私も泊まりましたが、寝て上を見ても「ねぶた」なのです。やり過ぎだろうとも思いますが、このように目を引くことで高付加価値を作るところもあるのかなという感じがあります。

名古屋は、愛・地球博があって、マリオットができて、中部国際空港ができたという経緯がありますが、ヒルトンがあったり、ティアッド・オートグラフがあって、きょう見たら平日だと54,000円くらいで少し下がってきている感じはあります。4万円、5万円のホテル、エスパシオ・ナゴヤキャッスルのような20万円クラス。富裕層を受け入れる上ではそこは大事になってくると思います。

名古屋は、名前はみんな知っているかもしれませんが、平均点が高い土地だと私は思います。生活するにはいいところだし、飲食に事欠くことは全くなく、おいしいものもたくさんありますが、名古屋のことを悪くいうつもりはないのですが、名古屋に来ないとできないもの、ほかの都市に絶対負けないもの、旅行に行くとき何かがあるから行こうという「誘い文句の言葉」が欲しいと思います。何か一個、突出しているものがあれば、それが人を呼び込みます。都道府県魅力度ランキングなどで茨城、埼玉、栃木が悪いのですが、野菜もあるし、物価も安く、住むにはいいところ

が、観光地的な魅力のある大きなものがない。そのところがあると思います。

そうすると、新しいホテルがオープンして、ホテルでのんびりする。グルメも、地元のものテーマパーク的なものとの両方があるいいのかなと思います。海外の方が情報を発信してくれるのが非常に大きいと思います。最近、ニューヨークタイムズの「行くべき52か所」で、3年前には盛岡、2年前が山口、1年前が富山、ことしは長崎が選ばれた。海外の方にとって名古屋はどう映るのかという検証がもっとあっていいと思います。名古屋は「二次交通」は完璧なので、全く問題ない。「食」も充実していますし、宿も私はかなり充実していると思います。自分たちの地域の強み、オンリーワンといえる絶対的なものは何かということが大事になってくると思います。

そして、宿泊税導入のときに他言語表記をやるとうことが多いのですが、今はスマートフォンがあるので、もういりません。英語と日本語だけあればいいと思います。グーグル翻訳で日本語にカメラを向けると、自分の国の文字が浮かび上がってきます。私は韓国語はわからないのですが、ソウルに行ってメニューにハングルしかなくてもグーグル翻訳のカメラ機能を押し、韓国語のメニューにカメラを向けると、自動翻訳して日本語が浮かび上がってくるのです。そして、音も耳に付けるAirPodsのリアルタイム翻訳で、英語とかほかの国のことばでしゃべったのを日本語に訳して音で伝えてくれます。日本語でしゃべったことを現地語にしてくれますが、そこまで待つてはいられないので、当面の使い方は耳だけわかれば、しゃべるのは片言の英語で頑張ろうと思っています。グーグルマップもあり今、外国の方に道を聞かれることはありません。名古屋も地下鉄とか、場合によっては路線バスに大きなスーツケースを持った方が乗ってきて、交通系ICカードでピッとやる。昔の日本への外国人の個人旅行では考えられなかったことが起きています。インバウンドが増えた背景のかなり大きい部分として、ITの進化が個人旅行を高めたことによって日本へのリ

ピーターが増えたと私は分析しています。

コロナのとき、京都は本当にいいところだと実感して、私もよく行きました。2020年の秋くらいから2022年の秋くらいまで、この2年間は本当にいい京都を見せてもらいました。インバウンドに関わるお仕事をさせていただいている中で、京都は絶対的にいいし、外国の方は京都に行かないで違うところに行ったらどうかというのがありますが、私は王道に行くべきだと思います。パリに行ってエッフェル塔と凱旋門に行かないで帰るということは考えられないのと同じような感じで、やっぱりベタなところに行って欲しいという気持ちも半分持っています。

一方で、それが多すぎることによって、一番の問題は日本人の京都離れです。では、なぜ東京離れ、大阪離れがないか。突き詰めると結論は、地下鉄があるかないかです。京都は一部を除いて地下鉄が観光スポットに直結していなくて、バス中心になってきます。東京と大阪はメトロが充実しています。名古屋も地下鉄とJRで大体移動できます。これが京都にはない。だから、バスの問題で地域住民が困ってしまう。電車なら対応できますが、バスは運転手の数、一回に運べる人数、交通渋滞も含め問題がある。鉄道網が本当に大事だというのはここです。京都も地下鉄がもっと充実していたら、全然違っていただろうという感じがあります。

地域の人にとっては、いいホテルができると泊まらなくても、レストランとかバーとかカフェを使うことができます。清水寺の前の「ホテル青龍 京都清水」はもともと小学校だった建物を改築してプリンスホテルが経営しています。ここで飲食してゆっくりする。食べたり飲んだりすれば5,000円くらいでいけます。そういった形で、いいホテルができると、いい施設もある、いいお客さんが来ると周辺にイタリアンとかフレンチを含め、いいシェフが来る。そういう好循環も生まれると思います。そういったものも地域に還元されるだろうと思っています。清水寺の紅葉もきれいですし、コロナ中の紅葉は静かに見られました。最近の京

都は中国の団体客が減ったおかげで、うるさくはなくなりました。

「中国人」と一括りにしてはいけないので、一般的に富裕層の人は何の迷惑もかけないし、海外旅行のマナーもわきまえていて全くウェルカムな方が多いのですが、団体で来られたりする特定の層の方のマナーが悪すぎるのが、団体客がいなくなって改めてその部分の差を感じています。それを今後どうするかを考えなくてはいけないと思いながら1月2日、清水寺に行ってお参りしてきました。

これからインバウンドを拡大していくに当たって一番大きいところは、日本人と外国人観光客の共存です。日本人に嫌われた観光地に観光客は戻ってこない、コロナなどリスクが起こったときにやはり来なくなってしまいます。ですから、インバウンドと同時に、今来ている日本人観光客を失わない、もしくは日本人観光客がちゃんと来てくれる施策が大事になってきます。インバウンドをやり過ぎると日本人が来なくなってしまふという例は結構あります。京都に菊乃井さんという料亭がありまして、シンガポール航空の機内食で日本食のプロデュースをされている料理長がいらっしゃって、3年くらい前にお話ししたときに言われたのが「うちは外国の名前で予約が4割くらいになったら、全部止める」と。「外国の方は予約が早いから外国の人で全部埋まってしまう。でも、自分の料理は子どもも含めて日本の人にもちゃんと食べて欲しいから、4割くらいになったら外国の名前で予約は全部お断りします」と。日本人の予約は受ける。差別という言い方をする方もいるかもしれないですが、地元ファーストというか、今までの地域割引が日本人割引として範囲が広がっていると感じます。

日本人のお客さんもちゃんと来てくれて、かつ外国人も来る。そういう共存モデルでやっていると、日本人の京都離れになります。東京はホテルさえ安くなれば日本人は行きますし、博多や札幌にもホテル代が下がることによって需要は動きますが、京都はホテルが下がっても、一部の人

は行っていますが、思ったほど回復していないです。京都は混んでいるというイメージが植え付けられすぎているところがあると思います。

去年、万博が4月から10月までありまして、私も気づいたら半年で37回、東京から通って、多いときは東京から週3往復くらいしていました。万博に行く途中、名古屋のテレビ局にリモートで出演の案内が来たのですが、ちょうど通過する時間だから寄って出演して、そのまま大阪に行ったこともありました。

一回行ったらまた行きたくなるという中毒症状が、観光にとっては大事です(図7)。万博は、混んでいるときに大屋根リングを一周するだけでも行ってよかったと思いました。木造の建築物を見ることができてよかったと思いました。夕暮れのドローンショーとか花火はきれいでしたし、噴水ショーもありました。ドローンショーは並ばなくても見られましたので、そういうものも大事だというのが学びでした。最終日は3,000機のドローンを使ったショーもありました。

大阪ヘルスケアパビリオンでは、25年後の私を見ることができました。このときは46歳なので、71歳の私はこうなるのだろう、とてもダンディでしたのでこれだったら嬉しいなと思いながら見ていました。

ほかには、iPS細胞の展示や未来に残るものでは「ミライ人間洗濯機」というものがあり、全身を15分から20分くらいで洗ってくれます。私も体験させていただきました。本当に心地よくて、何

大阪・関西万博で感じたこと

前売り券は不調が、開幕後にチケットが売れる

3月下旬からのメディア公開から風向きが変わる

大屋根リング・ミヤクミヤクが機能した

16時からの3700円の夜間チケットが大好評

SNS・YouTube、メディアの両方が効果的に機能

興味がある人となない人との温度差

日本人比率が94%であった

図7

もしなくても洗ってくれました。服を着ていますが、ミラバスのファインバブルは中に通ります。だから、裸で入ろうが一枚薄いのを着ていようが効能は一緒だそうです。今、量販型が2,500万円くらいで、万博用は1億円だったのですが、ちょこちょこ売れているらしいです。将来、量販でもっと安くなれば、介護施設で使えるようになってくると、こういう進化はすごいと思います。

万博は最初、不調でしたが、しっかりとしたコンセプトで作ればついてくる人がいる。しっかりとしたものを作ることは大事で、大屋根リングとミックミックは開幕前にあれだけ気持ち悪いか無駄だとか言われ続けていたのが、それがなかったら万博はどうなっていたかわからない状況でした。

結果的には、日本人比率が94%でした。80%くらいが日本人で、20%は外国の方かなと思っていたのですが、結果的には日本人に刺さった。その部分の成功は大きかったと思います。日本人に愛される施設が重要だということと、うちの母も20年ぶりに大阪に行ったとか、万博がきっかけになって行った。若い人は、「道頓堀にグリコの看板を見にいこう」ではなかなか大阪に行かないですが、USJとか万博があるから「大阪に行こう」ってなる。レゴランドもそういう感じで頑張っ

て欲しいと思います。2026年のキーワードは「疲れない旅」と私は言っています。いろいろな所をめぐるというよりも、予定もいっぱい詰め込まない、移動もスムーズ、宿でのんびりする。コロナ禍では逆にこもらなければいけなかったから動きにくかった。その後、リモートワークも徐々にリアルになってきて、動きやすくなる中で「疲れた」「ゆっくりしたい」ということでの旅が増えていると思います。

外国のサイトでは日本のコンパクトな地方が人気だということで、たとえば盛岡もニューヨークタイムズで2023年の訪れるべき場所選ばれています。私は2年前、約15年ぶりに「わんこそば」を食べることになり、何とか123杯いきました。前の日に別の番組の女性のレポーターが150杯食べていました。私も150杯食べる気満々でいった

のですが、全然だめでした。外国の方は50杯いかないそうです。その理由は簡単で、すすれないからです。噛んで食べるので、お腹いっぱいになってしまうそうです。日本には、すするという文化があります。100杯超えると証明書がもらえます。こういったコンテンツもあります。

去年は富山がフォーカスされました。私は母が石川県の金沢出身なので金沢にはよく行きます。おとしは新幹線が福井に開業したということで福井にもよく行きました。富山は通過するのではないかといわれていた中、北陸3県の中でも富山のよさ、寒ブリとかそういったものは有名だし、ホタルイカとかいろいろありますが、富岩（ふがん）運河環水公園にあるスターバックスが世界の美しいスタバのベストいくつかに入っています。雪の日であまりいい写真が撮れなかったのもう一回撮りにいこうと思っています。また、隈研吾さんがプロデュースしたガラス美術館があります。当然、白エビ、カニもあります。一番の衝撃はニューヨークタイムズの記事に、和風だしを使ったスパイスカレーがおいしい「スズキーマ」というお店があると英語で書いてあって、私はなぜ富山まで行ってスープカレーを食べなくてはいけないのか、でも載っているから行ってみようと思っていいたら、絶品で、はまってしまって去年だけで3回行って、テレビで取り上げたこともあり店主とも仲よくなって、年末にも行ってきました。氷見のお魚を使っただしで、そこから豚キーマにしたもので、東南アジア風のスパイスカレーよりもっとコクがあって、魚だしが利いて日本人に合うテイストです。そういう見方があるのかと、ぼくらでは考えられないようないいところを、外国の方は見つけてくるところで、なるほどと思いました。

富山のガラス美術館には富山市の図書館が併設されていて、地元の方は本を読んだりパソコンをしたりと、憩いの場になっており観光客も来ます。箱物を作るときに、これはいいコンセプトだと思います。地元の人もかっこいい図書館で勉強したり本を読んだりできるし、観光客もそこに来てガ

ラスの展示を見る。こういう建物の使い方はいいと思います。

広島宮島では、宮島訪問税100円をプラスアルファで取る形で、いわゆる宿泊税と似たようなことをやっています。島だから船に乗る人全員から取ることができます。修学旅行生とか島民とか働いている人からは取らないし、頻繁に行く人は年間500円払えばそれ以降払わなくてもいいというルールもあります。税の使い方が明確で、トイレの整備、参道の整備、ごみの整理に充てます。これを税金投入前からやっています。これだけかかっています、今までは市民の方から取っていましたが、それを観光客から取ってそれを充てますよと。そうすると、わかりやすし、街が目に見えてきれいになるし、住んでいる人も「いいな」と思ってくれる。それができなくて、むだにおカネを遣う県とか市が宿泊税に関してはあって、それは明確にして欲しい。また、それを取ることで地域住民が恩恵を得るようにして欲しいと思います。

広島も名古屋グルメに近いと思いますが、穴子飯がおいしくて、もちろんお好み焼きの美味しい店も何軒もあっていろいろなところに行ったり、最近でいうと「汁なし担々麺」にハマっていて東京でもよく食べますが、こういうのもあってグルメが豊富です。

函館では、「朝食ホテル戦争」ということばがあります。函館ベイエリアで、ラビスタ函館ベイ、センチュリーマリーナ函館などがあって、朝6時半から大行列です。井にイクラを乗せ放題です。ラビスタさんは北海道産のイクラにこだわっています。センチュリーマリーナ函館は、おかずが50種類以上あって、まず一巡歩いた上で好きな具材を見つけて盛っていきます。イクラとか海鮮の食べ放題はある程度競争しながらやっていますが、次は何で勝負するかといったらスパークリングワイン。“朝シャン”ができるということで、旅先で朝飲むこれがヒットしました。

ラビスタさんでプチ高級なラビスタ函館ベイANNEXを2年くらい前に建てました。ここも大体のメニューは一緒ですが、撮影用にいっぱい取っ

て食べたのですが、次に日本酒まで出てきました。

このように競い合うことが大事だと思います。1軒で勝負するよりも街全体で、朝市から徒歩圏内のホテルが競い合っている「朝食ホテル戦争」に行った人はみんな満足して帰ってくる。「次は隣のホテルに泊ってみようか」とか、中には2泊の人が1泊ずつ宿を変えるとか、これは1軒だけではできません。やはり常に闘ってくれないとだめで、競争相手は地域を盛り上げる上で絶対必要だと思います。名古屋の高級ホテル戦争も、エスパシオ・ナゴヤキャッスルは金額が高いですが、ティアッド、コンラッド辺りが競い合ってくれて、名古屋には外資系ホテルがいっぱいあって海外の方はいろいろ選べるとか、そこにどれだけローカルなグルメも含めてやっていくかが大事だと思います。

あとは夜景です。栄でもやっていると思いますが、東京の六本木ヒルズのけやき坂、東京タワーと白いLEDのライトの組み合わせは圧巻です。海外のイルミネーションと日本のイルミネーションの違いは、LEDの使い方が日本はうまいと思います。これはインバウンドで使えると思います。白い色のLEDを集中させる日本の手法、ヨーロッパは電熱の感じの色がいいと思います。

日本の夜景は、こういう色だと思います。ハウステンボスが一番だと思っていますが、関東だと栃木のあしががフラワーパークもいいと思います。

4. これからは市場など朝も注目（モーニングタイムエコノミー）

名古屋のモーニングの世界は、関東ではコメダでしか出てこないです。コメダは東京でも体験できます。名古屋はモーニング文化が出来上がっている中、レトロがあるので、それを現代版にアレンジして欲しいと思っています。東京も豊洲に市場ができたことによって、大きいところは全部豊洲に移転して、場外は寂れるかと思っていたら逆に、銀座から近いので、むしろ築地に市場があったとき以上に築地はすごいです。豊洲のほうがま

だ落ち着いています。豊洲はおいしいお寿司屋さん結構あるので、たまに行ったりします。ただ、距離が離れてしまうと、築地はコンパクトシティの中で地下鉄もあって便利ですが、豊洲は新交通「ゆりかもめ」でしか行けない。30分以上かかる。これだけでも影響があると感じます。市場の中にあるカレー屋さんが好きで、よく行く店がありません。

名古屋を拠点とした観光戦略

名古屋＋周辺地域の観光スポット
(岐阜・伊勢・志摩・飛騨高山など)
も含め、名古屋は拠点としての場所であるべき

新幹線と空港は充実しており、
更にグルメでも申し分ない。

名古屋に滞在しながら日帰りで観光地を巡る
(ホテルの数も多い。京都へも「のぞみ」で34分)

図8

東海地方では名古屋を拠点とした観光戦略が大事になってきます(図8)。欧米の方も増えていると思います。以前に比べたらこの5年、10年で、名古屋に泊まってくれないというのは、私が見ているとだいぶ解消されてきています。ホテルがこれだけでできていても、ちゃんと入っています。飲食店も来ています。そういうふうに見られない方も多いと思いますが、それほど悲観する必要もないと思います。ただ一方で、「名古屋に旅行に行こう」となる日本人はあまり多くはないのではないかと考えています。

空港はセントレアといういい空港があり、新幹線も名古屋駅があり、グルメも申し分ない。京都にも「のぞみ」で34分で行くことができる。外国の人で「ジャパンレールパス」を持っている人にすればどうということはない。難しいのは、30分は京都の隣町くらいのイメージでいけるけれど、名古屋の人がそういう位置づけでいいかという問題もあるので、何とも言えないところはあります。でも、いろいろな位置づけがあるのでないか。

名古屋もいいところがたくさんあって、ここもいろいろ店が集まっているのでいいと思います。

レゴランドはもうちょっと爆発して欲しいという気持ちもあります。個人的には「リニア鉄道館」が好きです。むしろレゴランドよりそっちに行ってしまう。ここはもっと伸ばせると感じています。鉄道好きもいるし、「パタパタ」の展示物もテンションが上がります。

セントレアに行けば飛行機が止まっていますが、閑散としています。駅から離れていることと、夜が早く閉まってしまう。イコールお客さんがいないということですから、しょうがないですが、今度ジェットスターさんが第2ターミナルから第1ターミナルに動いてしまうと、なおさら第2ターミナルのほうに人が行かなくなる。駅から遠いのですね。あの長い通路を歩いてまで行くのかというのはあるかと思います。でも、常滑市がいいのは、宿泊税を導入していて、常滑市内とかセントレアとか国際展示場を結ぶ無料バスが走っていて、あれは宿泊税のいい使い方だと思います。

アソシアも3~4年泊まってないのですが、落ち着いていて、名古屋グルメもあります。個人的には今日の会場の1階下にあるゲートタワーホテルの朝ご飯は、おいしいです。卵のサンドウィッチも名古屋コーチンを使っていたり、串カツもあるし、ひつまぶしもあります。これは泊まらない方もいけます。

SDGsの企画で2年前に岐阜にロケに行き、刀鍛冶の体験もしました。

名古屋、岐阜、三重を含めて広域で考えながら、でも名古屋に泊まれば全部いける。伊勢神宮に行くときは名古屋に泊まったほうがコスト的には安いし、名古屋はおいしいグルメもあるので、私は結構名古屋に泊まります。

鉄道も、「しまかぜ」を含めて近鉄特急もいい列車があるので、大阪に行くこともできますし、伊勢神宮には私は2年に1回は行っています。おかげ横丁もあって楽しめると思います。

5. グルメは最大の観光リピーターになる

グルメは最大のリピーター需要あり

観光スポットは一度訪れれば十分という考え方も多い。しかし、グルメは定期的に現地で食べたいという需要は多い。食のリピーターが確保できれば大きい。

グルメにおいては、街に合った
グルメ戦略を考えることが必要。
それぞれの地域に合うスタイルがある

気軽に食べられる地域のローカルフードがあるのは面白い。

最近では夜の食事が楽しい街(高知や石垣島など)への
リピーターも増えている。

夜の食事が楽しい街になることで、リピーターをもっと
増やすことができる。これは、どの都市も頑張れること。

図9

リピーターの一番手っ取り早いのはグルメだと思います(図9)。おいしいものを食べると定期的に行きたくなる。私は「ひつまぶし」の大ファンで、名古屋のひつまぶしのおいしいお店を回ったりしています。

一般的なグルメはラーメンとか餃子とかいろいろありますが、グルメ旅の典型的な例でいうと、北海道の積丹町でエゾバフンウニですが、20年前は4,000円くらいでした。4年前には8,800円まで上がって、今は1万円を超えています。私も3~4年に1回しか行けなくなってしまいましたが、でも絶品なので食べに行くこともあります。

一方、香川県の「谷川米穀店」ですが、私は日本で一番釜玉うどんがおいしいと思っています。香川と徳島の県境近くの川の横にあります。この釜玉うどん、1杯150円です。150円のうどんを食べるために、2万円、3万円かけて飛行機で行く。うどんを食べてそのまま東京に戻るのではなく周辺を観光もしますが、そういうものがあることによってそこに行く。

そうではない街は、先ほど言った疲れない旅ではなのですが、だらだらと昼間から飲んで、おいしいものを食べて、寝るのはビジネスホテルでいい。飲み屋街、屋台が充実しているというので、高知の「ひろめ市場」が気に入っています。昔ながらの雰囲気、カツオのたたきはサワーが合う

し、餃子はビールがいいといって屋台を回る楽しみもあります。

石垣島もリゾート地ですが、居酒屋が意外といいです。地元の居酒屋「ひとし」が好きで、ここが取れるか取れないかでテンションが変わるくらい、うにソーメンチャンプルーはすごくおいしいです。寝るところはビジネスホテルでいい。

スナック、クラブとかではなく、夜の飲食が楽しい街。スペインのサンセバスチャンが典型です。ここは日本人比率が高く、パリ、ロンドン、ニューヨークでは日本人とすれ違う機会は少ないですが、日本人はおいしい物が好きな人が多いですから、ここはすごく来ています。

名古屋グルメをどう観光に活かすか

ひつまぶし、味噌カツ、味噌煮込みうどん、
あんかけスパ、海老フライ、台湾ラーメン、
手羽先、きしめん、モーニング

素晴らしい名古屋グルメが沢山あるが、
もっと食のテーマパーク化が必要ではないか

名古屋グルメだけを集めた
フードコート(観光客+地元)

例えば、味噌カツを集めたエリア、
ひつまぶしを集めたエリアを作る

図10

名古屋グルメは、ひつまぶし、味噌カツがありますが、テーマパーク化して、地元の人が行くところはそのまま残し、もう1個観光客用に、高くてもいいからフードコートの1か所に集中させてテーマパーク化して、ここに行けば味噌カツから味噌煮込みうどんから手羽先から全部食べることができるような基地が名古屋にあったら、おもしろいと思います。蓬莱軒も好きです。まるやもいきます(図10)。きょうのお昼も味仙でラーメンを食べてきました。皆さんおなじみだと思います。

日本旅行でどこがいいか。今の一番のオススメは波照間島、西表島です。石垣島まで飛んでいただいて、そこから波照間は1時間15分くらいで行けます。最南端の場所で、「波照間ブルー」といっ

て本当に海がきれいです。大していい宿はなくて、ペンションとか民宿という感じですが、それを上回るくらい海のきれいなところですよ。ここは一生に一回は行って欲しいと思っています。

2026年は、

**訪日外国人観光客が
4500万人前後の可能性**

**都市部の一極集中から
地方への分散が課題に**

プラス面

■円安継続による欧米、オセアニアからの増加

マイナス面

■中国人観光客の日本渡航自粛の影響

図11

ことしの訪日外国人観光客ですが、少し伸びが鈍い感じがします。中国のマイナスと欧米のプラスで、12月単月でも一応2～3%は増えていますので、その流れからすると4,500万人前後になる感じがしますが、円高が進むと減る可能性があります（図11）。

旅慣れた人が増えてきたので、都市部への一極集中から地方への分散が課題になってきます。そう考えると、いったん都市部に入ってから地方に行くから、三重、岐阜、高山を含めて、名古屋が拠点になる。新幹線もある、飛行機もある。ここをどう中心都市としていけるかというところだと思います。

6. 旅行は、ネットではなくリアルでないと成立しない

コロナで動けなかった時期が終わり、旅行に行けるようになったときの開放感を味わった方も多いと思います。旅だけは、どれだけネット時代になっても、リアルでいかないと成立しない。情報収集はネットでいいと思います。私のYouTubeチャンネルもそうですが、結構シニアの方が見ていただいている、シニアの方は今、テレビでYouTubeを見る人が増えています。YouTubeで

行きたい旅行先を検索すると、結構いい情報が得られます。若い人はTikTokとかInstagramですが、40代以上の方だとよく旅行に行かれています。その情報をネットで見ながら、いいかどうか判断してリアルで行く。

そして、旅は平和でないとだめです。ウクライナの戦争の影響でロシアの上空を飛ばないので、ヨーロッパも14～15時間かかります。キューバも行きたいのですが、キューバに行くとESTA（Electronic System for Travel Authorization—電子渡航認証システム）が取れなくなってしまいます。そういう問題もあります。やはり平和が大事です。

そして、足を使って歩くという意味で、健康であることも大事です。

これで終了したいと思います。ご清聴どうもありがとうございました。